

「大規模展示場」核に

国際産業交流会館

今年度 建設促進協を設置

具体案取りまとめ進む 調査検討委

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

同館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から東三河地域が一つとなり、間に建設を計画。しかし、財では結核的に「時間尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を決定する中で、地域の特徴を加味したユニークな施設を創出・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

与野党凶式反映か

来夏の参院選

無知事、候補選から始まり、市町村長へ議員選で選挙を締めくくった統一地方選挙、豊橋市議選の結果が、すべてこの日程が閉じた。「選挙は前向きでない生ドラマ」を立証するように、各地でさまざまなドラマを生み、二転、三転の激戦ハプニングをも展開された。今回の選挙の特徴は、目撃報道、他党後援の無投票率、投票率低迷、選挙区七〇・少数派など。

無知事、候補選から始まり、市町村長へ議員選で選挙を締めくくった統一地方選挙、豊橋市議選の結果が、すべてこの日程が閉じた。「選挙は前向きでない生ドラマ」を立証するように、各地でさまざまなドラマを生み、二転、三転の激戦ハプニングをも展開された。今回の選挙の特徴は、目撃報道、他党後援の無投票率、投票率低迷、選挙区七〇・少数派など。

無知事、候補選から始まり、市町村長へ議員選で選挙を締めくくった統一地方選挙、豊橋市議選の結果が、すべてこの日程が閉じた。「選挙は前向きでない生ドラマ」を立証するように、各地でさまざまなドラマを生み、二転、三転の激戦ハプニングをも展開された。今回の選挙の特徴は、目撃報道、他党後援の無投票率、投票率低迷、選挙区七〇・少数派など。

無知事、候補選から始まり、市町村長へ議員選で選挙を締めくくった統一地方選挙、豊橋市議選の結果が、すべてこの日程が閉じた。「選挙は前向きでない生ドラマ」を立証するように、各地でさまざまなドラマを生み、二転、三転の激戦ハプニングをも展開された。今回の選挙の特徴は、目撃報道、他党後援の無投票率、投票率低迷、選挙区七〇・少数派など。

無知事、候補選から始まり、市町村長へ議員選で選挙を締めくくった統一地方選挙、豊橋市議選の結果が、すべてこの日程が閉じた。「選挙は前向きでない生ドラマ」を立証するように、各地でさまざまなドラマを生み、二転、三転の激戦ハプニングをも展開された。今回の選挙の特徴は、目撃報道、他党後援の無投票率、投票率低迷、選挙区七〇・少数派など。



豊橋市新栄町島嶽62番地
〒441-91 豊橋南局私簿第8号
東愛知新聞社
☎(0532)32-3111

◎東愛知新聞社1991
東京支社 〒101 ☎(03)3567-3501
東京都中央区新富1-12 東京コンソルト内
名古屋支局 〒460 ☎(052)962-6012
名古屋市東区東区1-10 中野ビル4F
豊川支局 〒442 ☎(05338)6-4463
豊川市東野2丁目281
新城支局 〒441-13 ☎(05362)2-0802
新城市屋敷7-2
蒲郡支局 〒443 ☎(0533)67-5892
蒲郡市木竹町平海通5-3-1

産婦人科
日比病院
豊橋市東小田原町六九
☎92-3333

きょうの紙面
戦争の
蔵平トンネル
新作映画の紹介

建設促進へ 具体案

今年度素案、来年度促進協設立へ

国際産業交流会館
調査検討委員会

国際産業交流会館調査検討委員会(会長・高橋アキラ豊橋市長)が、二十日午後三時から、豊橋商議所で開かれる。豊橋市・臨海部に構想の同会館の建設促進に向け、会館の必要性をはじめ内容、運営形態などの具体案を作成するための委員会で、今回が二回目。今年度中に素案をとりまとめるほか、来年度は建設促進協議会を設置する計画であり、「強力」に会館建設を県に働きかけていく。

同委員会は、東三河地域の官民一体で組織しており、メンバーは東三河四市長、四商議所・商工会の会頭・会長、町村会長、商工会連合会支部長の十五人。同会館については、東三河が産業技術中核圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化に対応していくために必要な中核的施設ととらえ、一昨年から同地域が一つとなり県に建設を陳情した。しかし、県では結論的に

「時期尚早」とし、「地域全体の総合的な将来像を策定する中で、地域の特徴を加味したユニークな需要を創造・開発し、その需要に見合った専用の展示施設のあり方を検討し、その位置付けや役割を確立する必要がある」とした。

こうした経過を踏まえ、より一層地域としての意識を固めるとともに、会館の必要性などの素案を作成し、実現化を図っていくため、さる七月同委員会を発足させた。

調査内容は▽会館の必要性▽会館の地域における効果と地域としての将来方向▽会館を核とした機能と施設の具体的内容▽施設規模および経費、事業運営と事業手法など。

民間コンサルタントに調査を委託しており、第二回の二十日は、これまでの調査内容を聞きながら、細部にわたる検討を行う予定。

ぜひとも必要

国際産業交流会館

「促進協」に衣替え

国際産業交流会館は、東三河地域が国際化、情報化、高度技術化に対応した産業拠点として発展していくために必要な施設であるとし、昭和六十三年に東三河の十九市町村の行政、経済界が一体となって興に建設を陳情した。県は、利用度などを問題とし、交渉は平行線をたどっていたが昨年三月、鈴木知事が「地域の特色を加味した施設のあり方や役割を検討する必要がある」と語ったことから、東三

河が一体となって、昨年七月「調査検討委員会」を発足させ、会館の必要性や具体的な内容、運営形態などの調査検討を進めてきた。

調査報告書によると、会館の必要性では①三河港の機能強化と活用(港湾物流を活性化するための展示・見本市機能の整備)②産業の高度化と技術交流(産業の集積や技術者交流の促進)③コンベンション機能の充実(人・物・情報の集積で地域活性化)④国

際交流・協力活動の推進(世界に貢献する地域づくり)をあげ、東三河地域の活性化のために早急に必要であると指摘している。

この中で東三河地域は、中規模以上の展示会・見本市ができる施設がないとし、メッセ機能のコンベンションが望ましいとしている。またニーズについては「顕在化していない潜在ニーズがあり、市内の公共施設、ホテルの稼働状況からみて、伸びていく」という見解を示し、施設の整備によりハイテクフェアの拡充、自動車関連の展示、農業、レジャー関連のイベント、展示会の開催などが期待できるとしている。

会長 高橋アキラ 副会長

山本七(豊川同) 山本七(豊川同)

メッセ型への施設に

潜在ニーズは十分ある

調査検討委員会が報告書

国際産業交流会館調査検討委員会(会長 高橋アキラ・豊橋市長)は十日午後、豊橋商工会議所で、第四回委員会を開き、国際産業交流会館に関する調査報告書をまとめた。会館建設は物流をはじめ、人々

情報が国際レベルで行われるような拠点づくりが必要であるとし、コンベンションの機能は見本市、展示会を中心に行うメッセ型を提示している。展示場の面積は五千平方メートル以上。同検討委員会は、この報告書作成で発展的に解消し同日、会館実現に向けての組織・国際産業交流会館建設促進協議会(会長・高橋アキラ市長)を発足させ、官民一体で強力に興に働きかけていく。



東海日日新聞社
豊橋市東松山町90
郵便番号440
電話(代表)7126
振替・名古屋4283



首書 11日
【豊橋】午前九時、部長会議(政策会議室)▽午後一時半、総会議(市長室)
【豊川】午前十時、議会運営委員会(議会応接室)◎正午、

5000平方メートルの展示場を

調査報告書まとまる

国際産業交流
会館調査検討委

国際産業交流会館調査検討委員会（会長・高橋アキラ豊橋市長）が、十日午後三時から、豊橋商工会議所で開かれ、会館の必要性をはじめ導入すべき機能、事業手法などの調査報告書とりまとめたほか、会館建設に向け、同委員会を発展的に改組し、建設促進協議会とした。官民一体となり、実現への活動を展開していく。

実現向け建設 促進協に改組

同会館については、東三河地域が、産業技術中枢圏の一端を担う地域として、国際化、情報化、高度技術化などに対応していくために必要な中核的施設として、昭和六十三年から県に建設を要望。昨年七月、建設の実現化に向け、同地域の官民一体で調査検討委を

設け調査を進めてきた。

調査結果では、会館の必要性で、中部圏や県での広域的状况や役割分担を踏まえて二十一世紀における東三河地域の活性化方策を考えると「三河港を中心とした物流」「産業技術を中心とした人や情報の交流」が、国際的レベルで行われるような拠点づくりが早急に必要とした。また、東三河のコンベンション機能として、中規模以上の展示会・見本市を開催するため

の施設は皆無に等しいとしたほか、ニーズをあげている。

会館の中核的機能では、五千平方メートル以上のメッセ（展示）機能のほか、商取引促進機能、国際交流および情報機能を、その他導入すべき機能ではオートフォーラム、各種団体のヘッドオフィス。さらに事業手法

として、複合施設のうち中核となる展示場は公共性が高いため行政主体で建設、その他は民間主体で建設・運営が望ましいとしている。

高橋市長は席上、「報告書もまとまったので、東三河一体となり、実現化を目指したい」とあいさつした。